

先週の礼拝メッセージ(2023年3月26日) ベン牧師

「主に喜ばれる信仰」 ヘブライ人への手紙 11:6

「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません」

このヘブライ人への手紙の「ヘブライ人」とは、「ユダヤ人」のことで、彼らは幼い頃から聖書に親しみ、神を信じている人々です。そのユダヤ人の中でも、イエス様を救い主と信じクリスチャンとなった人に向けての手紙がヘブライ人への手紙です。ヘブル人クリスチャンはもとより、クリスチャンであるなら、誰でも神に喜ばれたいと思っているはずです。

ですから、ここで言っている「信仰がなければ」というのは、救われているかいないかということを示しているのではないことがわかります。ここで言っている信仰とは、その次に続く言葉が示しています。

### 1、神が存在しておられることを信じる信仰

ユダヤ人クリスチャンに対して、神が存在しておられることを信じていなければならぬということです。実はこの「存在」という言葉は、「臨在」と置き換えることができます。臨在とは、神は確かにここにおられ、私に語りかけ導いてくださっている、私と対話してくださる神が今ここにおられるということです。私たちは時として、頭では神がおられることがわかっていますが、自分の思うようにならないと、つい、神様はなぜ？と疑ってしまうことがあります。神様は、私たちがどこに行っても、どんな時でも、ともにいてくださると約束してくださっています。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ 28:20) いつもとは、私が恵まれている時も、落ち込んでいる時も、信仰に立っている時も、不信仰に陥った時も、いつもなのです。そして単に一緒にいるというだけでなく、私の重荷を共に負ってくださり、慰め励まし、導いてくださるのです。

人生には何度か大きな転機があるでしょう。また、さまざまな問題にぶち当たる時があるでしょう。そういう時こそ、神様に信頼しなければならぬと、

頭ではわかっていますが、私たちは心配し、悩み苦しんでしまうのです。イエス様はそんな私たちの弱さをご存知で、勇気と力と平安を与えてくださるのです。私たちはいつも共にいてくださる主の臨在に気づき、イエス様を見上げることが大切です。

### 2、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを信じる信仰

興味深い言葉は、「神に求める者」ではなく「神を求める者」と言っていることです。私たちは祈りの中で、神に求めることは多くします。これをしてください、あれが与えられるように、病を癒してください等々。神に求めることが悪いわけではありません。ただここで言っている「信仰」は、神を求めるという信仰です。どういうことでしょうか。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。」(マタイ 6:33)

皆さんは毎日のデボーションで、賛美を捧げ、みことばを読み、祈っておられることでしょうか。そのこと自体が神を求めることなのです。なぜなら、みことばを通してでなければ神を知ることができないからです。礼拝に出席することもそうです。礼拝の目的は決して、良い話を聞くためでも、賛美をするためでも、兄弟姉妹と会うためでもありません、私たちは、神を求めるために礼拝を捧げ、今ここにいるのです。皆さんの心は神に向けられているのでしょうか。

時を共有し、心を合わせて神の前に出ていくこと、それが礼拝の本質です。このような礼拝を捧げる者には、神は報いてくださるのです。

「神に近づきなさい。そうすれば、神は近づいてくださいます。」(ヤコブ 4:8)

神を求める者は神に近づく者であり、その者には神の方から近づいてくださるのです。

神の臨在を覚える者、神を求める者を、神は喜んでくださいます。それらのものが集まっている教会は、自ずと神に喜ばれる教会となるのです。

一人一人がこのレントの時、イエス様の十字架を覚え、十字架があるからこそ、神の臨在に触れ、神を求める者とされているという恵みに感謝して、主に喜び主に喜ばれる教会として、一歩づつ前進していこうではありませんか。